

## 器量の持ち主 ～「良書を読み、有益な話を聞き、心の蔵を豊かにする」～

順天堂大学 名誉教授  
新渡戸稲造記念センター 長  
樋野興夫

今日（2020年5月12日）は、ナイチンゲール（1820年5月12日～1910年8月13日）の誕生日で、『看護の日』である。コロナショックの日々、鮮明に想い出された。色々な分野で、『21世紀のナイチンゲール』に相応しい人物はいる。『東村山がん哲学外来カフェ』代表の大弥佳寿子氏から、『越冬隊友の会ニューズレター』の原稿を依頼された。大弥佳寿子氏は、大変な器量の持ち主である。『器量』といえば、『挑太郎』を思い出す。鬼ヶ島遠征の物語は、子供時代、村のお寺の紙芝居でよく聞かされたものである。『挑太郎』が「犬・雉・猿」という性質の違った（世にいう犬猿の仲）伴をまとめあげたことを挙げた。世に処する人は「性質の異なった者を容れるだけの雅量」をもたなければならないと新渡戸稲造（1862-1933）は『世渡りの道』（1912年）は、述べている。「泣くのに時があり、ほほえむのに時がある。嘆くのに時があり、踊るのに時がある」の厳しい現実である。今は、まさに「泣く時、嘆く時」であろう。87年前の1933年3月3日に三陸で地震の大災害があったと記されている。その時、新渡戸稲造は被災地宮古市等沿岸部を視察したとのことである。その惨状を目の当たりにした新渡戸稲造は「Union is Power」（協調・協力こそが力なり）と当時の青年に語ったと言われている。今にも生きる言葉である。時代の波は寄せては返す。まさに、「人の心と歴史を見抜く人格の力出でよ！」である。思えば、癌研時代、今は亡き原田明夫 検事総長と、2000年『新渡戸稲造 武士道100周年記念シンポ』、『新渡戸稲造生誕140年』（2002年）、『新渡戸稲造没後70年』（2003年）を、企画する機会が与えられた。順天堂大学に就任して、2004年に、国連大学で『新渡戸稲造5000円札さようならシンポ』を開催したのが走馬灯のように駆け巡ってくる。2020年は、「新渡戸稲造 国際連盟事務次長就任100周年 記念事業」の時代的要請ではなからうか！2020年は、新渡戸稲造著『武士道』出版120周年でもある。

大弥佳寿子氏らとは、2007年から、東久留米で、新渡戸稲造 著『武士道』の読書会を継続している。「良書を読み、有益な話を聞き、心の蔵を豊かにする」（新渡戸稲造）。すべての始まりは「人材」である。行動への意識の根源と原動力をもち、「はしるべき行程」と「見据える勇氣」。ここに、『越冬隊友の会ニューズレター』の現代的意義があろう！

## 「なんとかなる」のココロ

伊勢崎市民病院 外科・乳腺内分泌外科 診療部長 片山和久

中国武漢で発症し世界的な問題となった新型コロナウイルス感染症の蔓延は依然として広域災害の様相を呈しており、その中で多くの方が感染の危険と隣り合わせになりながら不便な日常生活を送られている事と思います。マスコミでも連日新型コロナウイルスの話題が取り上げられており、今日は何人の感染陽性が出たとか、こんな人は重症化の危険が高いとか、海外ではこんな対策をしているのに日本では不十分であると不安を煽るような内容が報道されていますね。明るい話題に接することが出来ない毎日で、stay homeの合言葉で家の中で引き籠もっていると八方塞がりのような重たい雰囲気になるのも仕方ないですね。

樋野先生の言葉の処方箋に「八方塞がりでも、天は開いている」があります。冷静になって視点を変えてみれば進むべき道は必ず見えてくると、どのように振る舞えば良いのか解ってくるものです。

今回のコロナ禍の中で私が思い出したのは、とんちで有名な一休禅師のお話です。一休禅師は亡くなる直前に、三巻の巻物を弟子たちに遺しました。そして「この先、私が亡くなった後本当に困り果てた時にだけ、これを開けなさい。」と遺言し、遷化されました。何年後に、大問題が持ち上がり、寺の存亡の一大事になりました。弟子たちは、知恵の限りを尽くしましたが、妙案を思いつかず、途方にくれてしまいました。そのとき、一休禅師が遺してくれた巻物のことを思い出して、恐る恐る紐解いてみると、その巻物には各々こう書かれていました。一巻目・・・大丈夫、二巻目・・・心配するな、三巻目・・・なんとかなる。

それを見た弟子たちは、あつげにとられ、笑い出しました。そして、そのときに素晴らしい解決策を思い浮かべました。「なんとかなる」と信じていたら、本当に「なんとかなる」ものです。どのような状況にあっても気持ちのあり様が大切なのです。皆さん、冷静になって数多ある情報の中で何が真実であるのか考えてみましょう。そして自分でできることを粛々と行いましょう。さすれば「なんとかなる」という気持ちになりますよ。

## ステイホームで思うこと がん哲学外来ナース部会 岡田坦子

季節の移り変わりは早いものです。若葉の美しい季節からうの花が咲くころになってしまいました。コロナ情報も日々変わってゆきます。がさつな一日をおくっていた私に、時には深く考える時間を与えてくれたように思います。時間があるので、好きなことをすればと思うのですが、その割にはまとまったことは思いつかず、ただただ過ごしているばかりでしたが、折しも折り家の中で捻挫、足を骨折してしまいました。そんな時、本棚に沢山並んでいる本の中から、新渡戸稲造の「運命を拓きゆく者へ」という一冊が眼に入りました。そこには「人生、見切りも必要となる」という一節がありました。

実は今回の捻挫はコロナ自粛中のGW、どこも休診中でした。診察受けられたのは、事故後六日目でした。診察をうけたのは、40年前、同時期この新しい街に引っ越してきた向いの整形外科医院で、それ以来のお付き合いです。しかし今回は何か違うものを、感じるようになりました。今後のリハビリ体制のことなどと考えると、子供たちからは反対されましたが、家からは遠くなるが、かつて交通事故でかかった医院が安心できるような気がしました。思いきって転院することにしました。私にとって心の痛むことでした。

「見込みは立てやすく、見切りはつけがたい」と本に述べられていましたが、見切りをつけるということは、「大変な労力を心に強いる行為」であるということ、ささやかではありますが、身に沁みています。

## 自肅さんからの思わぬプレゼント

シャチホコ記念カフェ 彦田かな子

我が家には、3人の子供がいます。学校が休校になって3ヶ月。名古屋の狭い住環境で、教員の夫も在宅勤務。大人サイズが4人と小学生1人のぎゅうぎゅう詰めの自肅生活が続いています。先日、小学5年生の息子が何年ぶりかで「お風呂に一緒に入らない？」と誘ってくれました。とてもうれしく、水鉄砲で遊んだりおしゃべりしたりして当然、長風呂になりました。

私は、息子が成長していく中で一緒にお風呂に入るのは卒業したのだと勝手に思い込んでいました。しかし、仕事から帰宅し、バタバタと夕食を作り生活している私に対してそんな声をかけるすきを感じられなかったのかもしれない。今は時々一緒にお風呂に入る時間を大切に楽しんでいます。もちろん家族で息がつまり喧嘩したりする日々ですが「人生いばらの道、されど宴会」を我が家のテーマに今を楽しんでいます。



## 越冬隊庶務係が五月晴れに思うこと

東久留米がん哲学外来 in メディカルカフェ 小林真弓

季節は、春からもう初夏。夏日を記録したこの頃。

冬ごもりが終わったかなと思ったら、ずーとステイホーム。このまま越冬して来春まで冬眠しようかとも思ってしまふ。しかし、冬眠するには、暑い！

窓の外は、五月晴れ。今年は、鯉のぼりも何だか、寂しそう。

今年は、ステイホーム！ステイウィーク！

ステイホームには、想像力が大事だそう。私は、想像より、妄想してしまう。私の妄想は、VRも追いつけない！妄想は、時も場所も空間も飛び越す。翼をもつ鳥のよう。私の場合、鳥よりもジェット機かも。

なぜか妄想中の私は、体も体力もみなぎっている。腰も膝も痛くない。おまけに、容姿は、チャーリーズエンジェルか、天海祐希、いいね～（少し古いかな）コバヤシ天海は、何してる？もちろん宝塚大劇場の大階段を大きな羽つけてスポットライトを独り占めして降りてくる!!妄想だから・・・いいよね。あ～ミュージカル見に行きたいな・・・ポーっと五月晴れの空を眺めては、天海祐希風の私を妄想して、ニヤニヤ。

**あっ！ばーちゃんが呼んでる！**

2020年5月の群馬に戻ってくる。

妄想は、楽しい。妄想している束の間が愛おしい。

感染症が広がる中、日夜頑張ってください医療関係の皆様、感謝です。

今、私ができるのは、手洗いと、ステイホーム。

みんな頑張ってるから、もう少しの辛抱ですね。

あ～、早くカフェでみんなと会いたいな。

その日まで、みんなとおしゃべりしている姿を妄想して過ごしてます。

皆さんもコバヤシ天海を妄想して楽しんでください。ではまた。



## 2020年のわたし

池袋がん哲学外来・帰宅中カフェ 角田万木

風薫る5月は、私の一番好きな季節です。

昨年の今頃は3回目の再発の兆候があり、誰にも話せず苦しい時を過ごしていました。今は、3回目の手術・抗がん剤治療が一段落し、2016年10月からずっと治療が続いていたので、今しか出来ない休薬にしてもらいました。3月までは入院での抗がん剤をしていたので、今もあまり変わらない生活です。もう頑張れる体力は無く、無理も出来ませんが、自分の足で歩いて、美味しくご飯が食べられるから幸せです。  
(株)幻冬舎の本のタイトルにもなった『明日この世を去るとしても、今日この花に水をあげなさい』という言葉が一番好きですが、副作用で2度程死に近付いた時には生きるのに精一杯になってしまいました。2018年に救急搬送され、脱水による記憶障害になり、その後ずっと自分に自信の無い日々となっていたので、ステイホームは自分を見つめ直す良い機会となっています。

病気になったからこそ出会えた方たちに支えられ、また元氣になれた事に感謝して、小さな事しか出来ないけれど積み重ねていきたいと思います。

「越冬隊友の会」連絡先: 副会長 大弥佳寿子  
TEL042-395-2140 [kzoya@aa.bb-east.ne.jp](mailto:kzoya@aa.bb-east.ne.jp)  
後援: 一般社団法人がん哲学外 <http://www.gantetsugaku.org/>